

コーチング学学位プログラム（3年制博士課程）

Doctoral Program in Coaching Science

- 博士（コーチング学）
- Doctor of Philosophy in Coaching Science

人材養成目的 / Program Educational Objectives

国際的な視野と高い倫理観を備え、コーチング領域における高度な研究能力とコーチング実践力を養うことで、コーチング学に関する研究および教育を先導できる研究者、大学教員および高度専門職業人を養成する。

| | |
|---------|---|
| 養成する人材像 | グローバル化している現代社会において、創造的な知性と豊かな人間性を備え、コーチングにおける複合的な課題を実践現場と協働して解決できる人材。 |
| 修了後の進路 | 体育・スポーツに関する専門の学部および学科を有する大学・短大、一般体育の授業を行っている大学・短大、各種競技団体やスポーツ組織等。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する3年制博士課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士（コーチング学）の学位を授与する。

| | コンピテンス | 評価の観点 | 対応する主な学修 |
|-------|--|---|---|
| 知識・能力 | 1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力 | ①新たな知の創成といえる研究成果等があるか ②人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか | コーチング学研究法Ⅰ、研究指導科目、論文発表に関する科目、博士論文作成、学会発表など |
| | 2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力 | ①重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ②専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか | コーチング学研究法Ⅱ、研究指導科目、演習科目、他研究室と共同の演習科目、インターンシップ科目、達成度自己点検など |
| | 3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力 | ①異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ②専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができるか | コーチング学研究法Ⅰ、研究指導科目、演習科目、研究発表に関する科目、学会発表、ポスター発表など |
| | 4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力 | ①魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ②目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか | コーチング学研究法Ⅱ、研究指導科目、他研究室と共同の演習科目、大学院共通科目、TA経験、プロジェクトの参加経験など |
| | 5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲 | ①国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ②国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか | コーチングの哲学と倫理、大学院共通科目（国際性養成科目群）、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目、国外での活動経験、外国人（留学生を含む）との共同研究、TOEIC得点、国際会議発表、英語論文など |

| | コンピテンス | 評価の観点 | 対応する主な学修 |
|-------|--|--|---|
| 知識・能力 | 6. 研究マネジメント能力：コーチング学分野における専門知識の体系を理解し、自立して研究を計画・遂行する能力 | ① コーチング学に関する研究の対象について深く理解したか ② 自立した研究者として新しい時代のコーチングに資する知を発信する方法について深く理解したか | コーチング学研究法Ⅰ、研究セミナー、博士論文作成、学会発表など |
| | 7. 実践研究推進力：コーチングにおける実践力の構造を理解し、それを合理的に伝える能力 | ① コーチング実践に関する個別事例をわかりやすく報告する能力を身につけたか ② 個別事例の本質を解釈し、事例研究を推進する能力を身につけたか | コーチング学事例研究法、コーチング事例報告会、学会での実践報告など |
| | 8. 創造力：コーチング学分野の発展に貢献し得る新たな知を創成する能力 | ① 研究成果を分野の異なる研究者にわかりやすく論理的に説明できるか ② 研究成果を専門分野の研究者に適切に伝え、質問に的確に答えることができるか | コーチング学研究法Ⅱ、コーチングの哲学と倫理、研究セミナー、博士論文作成、学会発表など |
| | 9. コーチング実践力：コーチング学分野における専門知識を総合して、合理的なコーチングを遂行する能力 | ① コーチング学において創造された知を総合する能力を身につけたか ② コーチング実践活動を省察し、コーチング学の構築に資する実践知を発信する能力を身につけたか | コーチング学事例研究法、TA、TF、体育スポーツ局活動など |
| | 10. インテグリティ：コーチングに関する哲学および倫理について深く論考し、教育できる能力 | ① コーチング学分野の研究者にふさわしい倫理的知識を身につけたか ② 新しい時代を担うコーチにふさわしい倫理観を身につけ、それを他のコーチに伝えられるか | コーチングの哲学と倫理、TA、TF、体育スポーツ局活動など |

| | |
|---------------------------------------|--|
| <p>学修成果の 評価に関する 方針</p> | <p>学修成果の評価は「達成度評価表」に基づく達成度評価によって学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を確認し評価する。</p> <p>研究マネジメント力の基礎、コーチングにおける実践力の構造及びコーチングの哲学、倫理に関する知識の習得とコーチング実践力の向上を、コーチング学学位プログラム開設科目（4科目必修）の授業での学修、討論、報告の内容によって授業担当教員が評価する。</p> <p>3回の研究セミナーを通して、新たな知の創生に向けての研究の進捗を確認し、コーチング事例報告会において、専門知識を統合した合理的なコーチング遂行力をセミナー及び報告会担当教員が評価する。</p> <p>また、海外交流事業参加者らによる報告会では国際性への意欲を評価する。</p> <p>さらに、関連学会における論文発表、日常のコーチング実践活動についての自己評価を行う。</p> |
| <p>学位論文に 関する評価 の基準</p> | <p>筑波大学大学院学則に規定された要件を充足した上で、学位論文が下記の評価項目について妥当と認められ、かつ、最終試験によって以下の2つの基準を満たすことが確認され合格と判定されること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学位論文において、コーチング学分野における新たな学術的知見が十分含まれる。 2. コーチング学分野で自立した研究者として研究活動を行うに必要な高い研究能力を有する。 <p>(評価項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、コーチング学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。 2. コーチング学分野の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、学術論文として発表するのに相応しい量含まれていること。 3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。 4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。 5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、コーチング学分野の博士論文に相応しい形式にまとめてあること。 <p>(審査体制)</p> <p>博士学位論文の審査等を実施するために設置する学位論文審査委員会は、主査1名と3名以上の副査で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主査は、研究群における研究指導担当教員とする。 2. 主査、副査は博士の学位を有する者とする。ただし、副査については、博士の学位を有していない者を例外的に1名まで認めることができる。 3. 審査委員のうち少なくとも1名は、コーチング学学位プログラム以外から選出される者とする。なお、本学大学院の他研究群、他大学の大学院教員又はそれと同等以上の研究業績を有するとコーチング学学位プログラム教育会議が認めた者とするができる。 |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

コーチング学は、主に競技スポーツにおけるトレーニングの目標、原理、方法、計画などを体系化した理論である。1950年代から東欧圏を中心に発生し、その後、国際的に研究が進んでいる。コーチング学はスポーツに関する国際学会においても、Coaching Study または Coaching Science として独自の領域を形成しており、博士（コーチング学）(Ph.D. in Coaching Science) は、国際的に通用する学位名称として認知されることになる。

本学位プログラムは、一般コーチング学、トレーニング学、スポーツ運動学、個別コーチング学（個人）、個別コーチング学（球技）、個別コーチング学（武道）の6領域における研究力・専門知識・倫理観とともに、人間総合科学における幅広い基礎的素養、広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。

| | |
|--------------------------------|---|
| <p>教育課程の編成方針</p> | <p>本学位プログラムは、国際レベルの選手やチームへのコーチング経験と高度の研究能力を併せ持った教員によって教育と研究を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「コーチング学研究法Ⅰ」（専門科目）により、知の創成力、コミュニケーション能力、および研究マネジメント能力を身に付ける。 - 「コーチング学研究法Ⅱ」（専門科目）により、マネジメント能力、リーダーシップ力、実践研究推進力、および創造力を身に付ける。 - 「コーチング学事例研究法」（専門科目）により、実践研究推進力、創造力、およびコーチング実践力を身に付ける。 - 「コーチングの哲学と倫理」（専門科目）により、国際性、創造力、およびインテグリティを身に付ける。 - 「コーチング事例報告会」により、コミュニケーション能力、実践研究推進力を身に付ける。 - 研究セミナー1～3、学会発表1～3、論文投稿1～2、研究報告会、予備審査会、学位論文審査会により、知の創成力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、研究マネジメント力を総合的に身に付ける。 - コーチング学学位プログラム海外交流事業により、国際性、創造力を身に付ける。 - コーチング実践活動により、リーダーシップ力、コーチング実践力を身に付ける。 - 体育系以外の修士課程を修了した者は、体育学学位プログラム（博士前期課程）が開設している科目から10単位程度履修し、主に初年度に研究の基礎となる専門知識を身に付ける。 <p>なお、学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、研究群共通科目、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から2単位を履修することを推奨する。</p> |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>本学位プログラムを担当する教員は、コーチング領域で国内外の指導者として活躍し、かつ極めて高度の教育研究上の指導能力があると認められる教員である。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 博士論文のための研究指導は、本学位プログラムを担当する3名以上の教員によって構成されるアドバイザーコミッティを中心に実施する。 - アドバイザーコミッティは、指導学生に各種スポーツの競技団体等が主催する事業や国際大会、国際セミナー等への積極的な参加を促し、コーチングに関わる実務能力の向上とコミュニケーション能力の向上も支援する。 |

入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|---------|--|
| 求める人材 | 一定レベル以上の競技歴もしくは指導歴を有し、コーチングに関わる様々な課題に対し、研究を通して真摯に解決しようとする高い志を持っている人材を求める。さらに、世界に目を向けて活動しようとする情熱を持った人材を求める。 |
| 入学者選抜方針 | 以下の合計得点（500点満点）によって選抜する。 <ul style="list-style-type: none"> - 書類審査（200点） - 英語（100点） - 口述試験（200点） |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-----------|--|
| 学修支援 | コーチング学学位プログラムに所属する学生の国際性を涵養することを目的に、海外で開催される国際学会等で研究成果の発表、海外の大学、研究機関等での調査・研究、海外において研究テーマに関する資料の収集などに旅費、宿泊費等の経費を支援する。 |
| 学生同士の交流機会 | 学生代表を1名選出し、学位プログラム内の学生コミュニティの円滑な活動がなされている。また、専門領域が異なる複数の学生が共同利用する部屋を複数配置し、学生間の交流の場になっている。 |
| 教員との交流機会 | 入学時に、世話教員と2名の教員によるアドバイザーコミッティを組織し、研究支援に限らず、コーチング実践や日常生活に関わる多様な支援をする体制が整っている。研究セミナーや事例報告会後には、教員、学生による懇談会が行われ、学位プログラム内の教員、学生の幅広い交流の機会になっている。 |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

教育課程委員会において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証する。また、教員会議において、授業評価アンケートの結果や、学生との懇談などから得られた教育の質に関するフィードバックを参考に、教育の体制や方法を検討する。さらに、トップレベルの指導者との交流などのコーチング学の特徴的な内容を含むFDの開催によって、教員の資質能力向上に取り組む。